

とじ込み付録

あと5打は縮まる!
賢いシャフトの
選び方読本



the PARTner for GOLfers

12/24 Weekly Magazine 2013 vol.49 380yen

なるほど、
出している人は
ココが違った

スコア更新

かなえます!



2013年
松山英樹は
ことうして
上り詰めた!

プロからの
スコアメイク
即効ヒント
大特集

競技ゴルフアに学ぶ
最新クラブセッティング
3パットしない!
長〜いファーストパットのコツ
寄るアプローチの
最適ロフト角見つけた

ウェッジは多様なロフト角がラインアップされているが、どのロフト角を選べばよいのか迷うところだ。そこで48度、52度、56度、60度のウェッジを使用して、それぞれのロフト角がどのような状況で寄せやすいのか、試打実験で検証した。

試打実験で分かった

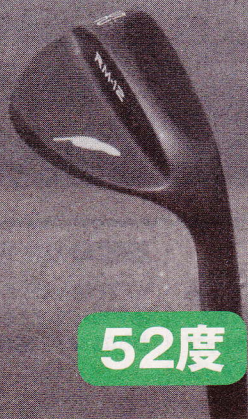
ピンに寄るロフト角はどれだ!?

ピンから50センチ以内に3球寄せるのに要した打球数

	フェアウエー	ラフ	合計
48度	6	5	11
52度	4	4	8
56度	4	4	8
60度	7	6	13



48度



52度



56度



60度

ロフト角の違いで、ピンへの寄りやすさが変化するのかがどうかを検証するために、同一モデル（フオーティーンRM12）の48度、52度、56度、60度のウェッジを使用して、ピンまで30ヤードのフェアウエーとラフの2カ所から試打を行い、ピンの前後50センチ以内に3球寄るまでに何球打ったかを記録。また、ピンの前後50センチ以内に寄った3球のキャリーとランも記録し、その平均値を算出した。

30ヤードで最もピンに寄ったのは52度と56度



テスター&解説
小暮博則

こぐれ・ひろのり／1972年11月27日生まれ、埼玉県出身。PFGA代表、スタック&ティルト公認インストラクター。赤坂（東京都）、所沢（埼玉県）のレッスンスタジオで、最新ゴルフ理論を用いたレッスン活動を初心者から上級者まで幅広い層に行っている。

60度

「上げるショットにいい(バンカー越えなど)」という小暮の言葉どおり、約8割の距離がキャリーとなる。ピンが手前の場合でも有効な手段。



56度

カラーまで距離がある場合などに、直接キャリーでグリーンにボールを落とせる。ランの勢いがあまりなく、ランが傾斜に影響されやすいので、比較的傾斜のない平らな状況にいい。



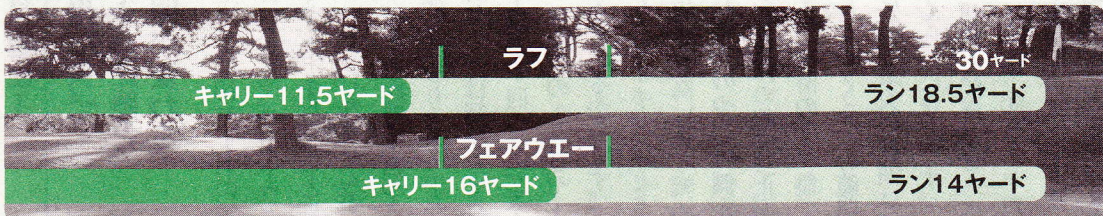
52度

距離の半分はキャリーなので、ピッチエンドランがしやすい。ランの勢いもあるので、花道からやや上り傾斜のグリーンに打つときに距離を合わせやすい。



48度

30ヤードのうち約6割はランなので、グリーンのカラーからピンまでの距離があるときに、ランニングアプローチでピタリと距離感を合わせていきやすい。

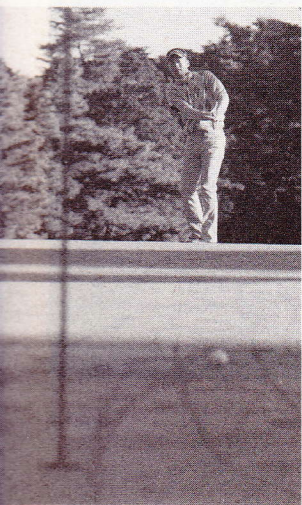


●ボールの位置は、フェアウエイ、ラフともにカラーまで4ヤード、カラーからピンまで26ヤード。グリーン面はわずかに上り傾斜になっていて、フェアウエイは芝が薄く、ラフは芝が枯れた状態でテストを実施した。

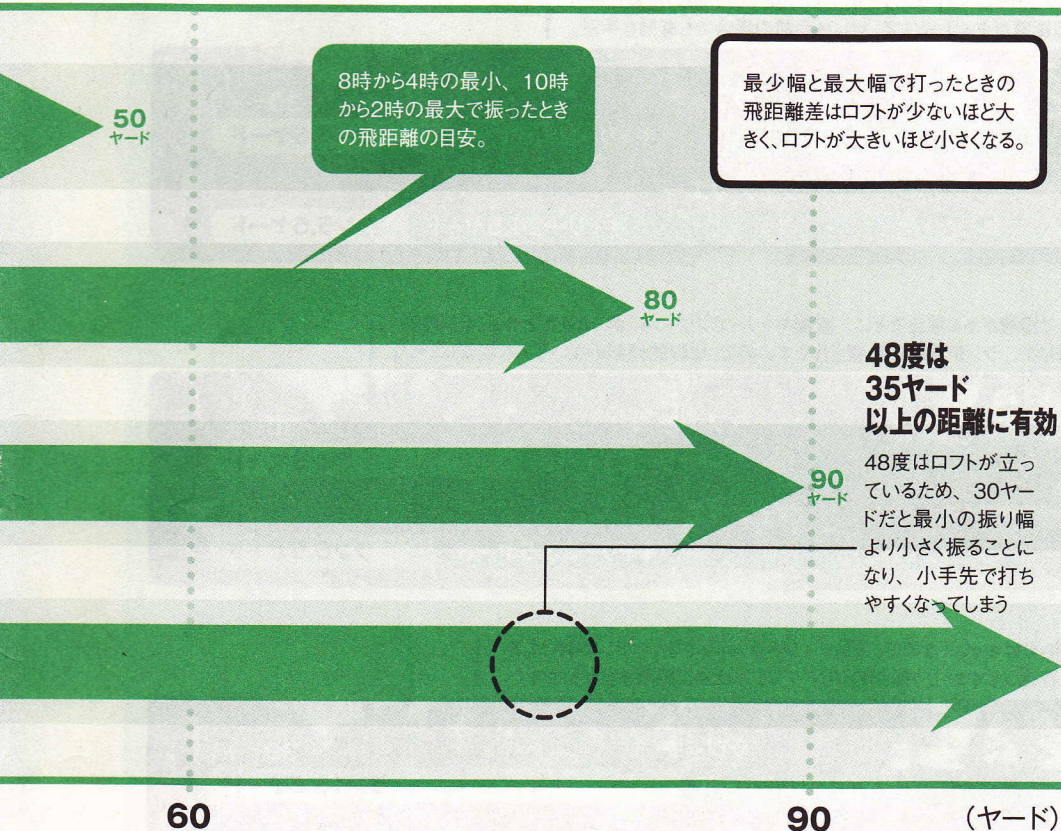
要した打球数は、フェアウエイからとラフからを合計すると、48度11球、52度8球、56度8球、60度13球だった(右表参照)。その結果から、30ヤードの距離であればロフト角52度または56度がシンプルなアプローチでは適していると考えられる。

一方、キャリーとランの測定値を見ると、フェアウエイからラフかにかかわることなく、ロフト角とキャリー・ランの距離に比例関係が見られた(ロフト角が大きいほどキャリーが多く、ランが少なくなる)。これによって常に1本のウエッジでグリーン周りのアプローチをこなすのではなく、同じ30ヤードのアプローチであっても、グリーンエッジまでの距離によって選ぶべきウエッジを換えるのが得策だということが明確になった。

※実験の結果は目安です。クラブ、気象条件、ピンポジション、グリーンの速さなどにより、異なります。



安定したアプローチができる 振り幅には最大と最小がある



小喜プロが解説！

ロフト角によって
打ちやすい距離と
その範囲が変わる

ドライバーで10ヤードのアプローチを打つことや、サンドウェッジで120ヤードを打つことは不可能ではないかもしれませんが、コンスタントにその距離を打つことは非常に難しくなります。ドライバーでの10ヤードは調整して打てる距離の下限を下回っていますし、サンドウェッジの120ヤードは上限を超えているからです。

ではアプローチではどうなのか？再現性が高い振り幅の最小範囲は、右ヒザの少し外側から左ヒザの少し外側の範囲、正面から見たときに、時計の文字盤でいうと8時から4時くらいの範囲になります。反対に最大の範囲は、10時から2時くらいになります。

実験で48度と60度がピンに寄りにくかったのは、30ヤードだと48度では下限以下だからです。また60度は範囲には入っていますが、

練習場でロフトごとの ゾーンの距離をつかんでおこう

練習場やアプローチ練習場では、どうしてもピンを狙って距離感をつかむような練習をしがちですが、自分が最も安定して振れる振り幅を確認する練習をしましょう。

そのうえでキャディバッグに入れているウェッジの各ロフト角はその振り幅でどれくらいの飛距離が出るのかを確認すれば、実際にコースでアプローチするときを持つべきクラブに迷うことはなくなるはずです。

また、このときに番手間で大きく飛距離の差ができてしまうとか、差が少ないのであれば、ロフト角の構成を見直して飛距離の差が均等に近くなるセッティングにしておけば、苦手な距離もなくなるはずです。

ロフトが寝ているぶん、芯の上下に打点を外した場合の飛距離のブレが大きくなります。要はミスに対する許容度がないので、緩みやすい中途半端な振り幅は向かないのです。ロフトが立っているほど、下限の振り幅と上限の振り幅の飛距離差は大きくなります。60度は例外ですが、上の表を見れば分かるように、30ヤードは52度と56度の飛距離の許容範囲に入っているから寄りやすかったというわけです。

60度

15
ヤード

56度

25
ヤード

52度

30
ヤード

48度

35
ヤード

**60度は
最小&最大の
振り幅で!**

30ヤードのラインに入っているが、60度は中途半端な振り幅では芯を外しやすく、距離を合わせるのが難しい。最小と最大の振り幅で振るのがベスト。

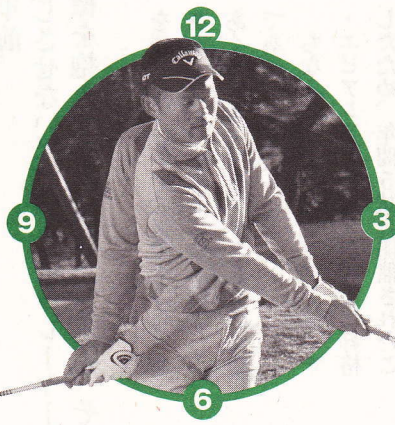
**52度、56度は
30ヤードがいい**

30ヤードのラインに52度、56度が入っている。ともに最小の振り幅になるが、そのほうが距離を合わせやすい



ウェッジのフルショットの振り幅

10時から2時が最大



8時から4時が最小

アプローチに最適な振り幅がある

キャリーの距離も考えると打てる状況がイメージできる

試打結果の数字にもあるように、ロフトが寝ているクラブほどキャリーの距離が長く、ランが短くなっています。例えばバンカーのすぐ先にピンがあった場合、60度のほうが48度よりピンに寄せやすいのは、ある程度の経験者なら容易にイメージできるはず。高い位置に打ちたい場合も、やはりロフトが寝ているほうが高く上

げて寄せられるというイメージがつかれるでしょう。

逆にキャリーが短く、ランが長い48度は、ピンが奥の場合などに手前から転がっていくイメージが作りやすくなります。

このように、状況に対して各ロフト角の球筋をイメージすることで、幅広いアプローチができるようになるはず。